



① 田辺工場で金属加工もカバー
② 企画の段階から顧客に入り込む
③ 内製化した塗装工程
④ 金属加工でも自動化を進める
⑤ ファイバーレーザー溶接を導入

ちよう よう
株式会社 朝陽

- 企画力
- 短納期
- 小ロットOK
- 量産OK
- 試作OK
- ノウハウ技術
- 連携力

代表取締役
はさま ひろ 樹
裕 弘樹 さん



スイッチから照明器具へ転換
大手電機メーカーから品質などで評価

昭和37年に「朝陽製作所」として創業。もともとスイッチなど機構部品を生産していましたが、昭和38年に電気用品の認証を取得し、照明器具の生産を始めました。昭和42年に守口工場（大阪府守口市）、昭和58年に田辺工場（京都府京田辺市）を立ち上げ、大手電機メーカーの協力会社として品質優秀賞や合理化コンクールの金賞など受賞しています。「日新日進」を社是とし、人の進むべき道程である「行・結・頭・挑」を表す「掌五角」を会社の基本姿勢として掲げています。社員の自ら考える力にさらに磨きをかけ、次のステージに進みたいと考えています。

- 主な事業内容
鍍金加工を軸とした、照明器具および関連金具、住宅設備の製造
- 主な取引先（納入先）
照明器具製造メーカー、住宅設備製造メーカー

住 所 / 〒570-0014
大阪府守口市藤田町2-25-7
TEL / 06-6904-1476
FAX / 06-6904-3118
創 業 / 昭和37年4月
設 立 / 昭和37年4月
資本金 / 2,000万円
従業員 / 164名

<http://www.choyo-net.co.jp/>

大手電機メーカー向けの照明で 企画開発からサポートし長年の実績

事業内容と沿革

多種多様な品種を手がけ、LED化の波にも対応

住宅照明や施設照明を設計、製造。開発から金属加工、組立、梱包まで一貫して手がけ、ラインアップは約600品番にもおよぶ。小ロットから中ロット、多種多様な製品の生産を得意とする。かつてはシャンデリアなどを多く生産していたが、「阪神大震災でコンパクトな形のもの求められるようになった」とは、裕弘樹社長が説明するように、同じ照明器具でもその中身は時代によって大きく変わってきた。

照明業界では最近、光源そのものの転換も急速に進んでいる。代表的な光源はLED。同社では守口工場（大阪府守口市）、田辺工場（京都府京田辺市）とも組立ラインにはクリーンブースを設けるなど、LED化の波という市場の動きにも素早く対応してきた。すでに同社の生産する照明器具ではLED比率が90%を大きく超えている。このような時代の変化へ柔軟に対応してきたことが、半世紀以上にわたる大手電機メーカーとの取引継続につながっている。

強み

設備自作で 海外に負けない コスト競争力

自社製品は持たないものの、大手電機メーカーへ供給する製品では企画段階から入り込み、完成品まで仕上げる実力を持つ。加えて生産設備も自ら開発。そのため生産技術まで考慮に入れた製品設計もでき、国内生産ながら、海外に負けないコスト競争力を維持している。裕社長は「たとえば海外と同じコストで生産できるのであれば、国内生産のメリットは計り知れない」と胸を張る。得意とするのは金属加工。特に嵌合は同社のコア技術で、光を制御するルーバーでは0.5mmの薄いアルミ板を0.05mmの誤差で組み立てるといった高い精度を誇る。

平成24年からは組織横断的に改善プロジェクトをスタートした。現場の課題解決の達成率は当初の40%から現在は90%に。TPM活動にも取り組んでおり、「問題解決に取り組む社員の自走力が上がってきた」と裕社長は手応えを感じている。

取り組み

金属加工、塗装、 レーザー溶接も内製化

昭和58年に京都府田辺町（現京都府京田辺市）に金属加工工場を立ち上げた。それが現在の田辺工場である。ルーバー部品など金属加工を社内に取り込むためだった。それまでは外注で対応していたが、求められる精度に応えられる協力企業が見つからなかったという。現在は塗装工程も内製化し、レーザー溶接もこなす。

宅配ボックスの生産で肉厚な材料を加工する必要が生じたため、最近ではファイバーレーザー溶接にロボットを組み合わせた設備も導入した。これにより加工速度は現状の10倍から20倍にアップ。溶接後の後処理も簡略化できるため、大幅に生産性が向上する。同社ではプレスからベンダー、レーザー切断、ターゲットパンチプレス、溶接、塗装まで一貫生産できるのが強みだ。また開発面では3次元プリンターも導入しており、試作品や小ロットの樹脂部品などでフル活用しているという。

今後の展開

現場の“自走力”高め、 市場の変化に対応

「常に新しい風を吹かす仕掛けをしていかないといけない」と裕社長は話す。照明器具の製造に携わってから半世紀余り。その間にも、デザインや技術などで市場の変化が次々と同社を襲ったが、それらを乗り越える度に成長を遂げてきた。照明分野以外では、金属加工技術を生かした宅配ボックスへ参入を果たした。自社ブランド製品ではないが、平成28年から生産をスタートし、大手メーカー向けに供給している。

今後は国内市場そのものが少子高齢化で縮小は避けられない。それだけに同社にとっても新分野への挑戦が、これまで以上に課題となる。その基盤となるのが現場力だ。同社では6S（整理・整頓・清掃・清潔・しつけの5Sに加え「総合安全」）委員会を立ち上げ、治具や作業手順などの改善に全員参加で取り組む。改善件数は年600件にのぼり、平成28年度からは褒賞制度も開始した。今後も現場の“自走力”が成長へのエンジンであることに変わりはない。

金属加工

プラスチック加工

機械

部品部材

生活・環境